

令和7年度 江戸川区立小岩第一中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	自主…自主性に富んだ生徒を育てる 責任…責任を持って行動する生徒を育てる 健康…健康で情操豊かな生徒を育てる		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	みんなが幸せになれる学校 次代の社会の担い手となる生きる力を身に付けた生徒 学校経営参画意識をもって職務を遂行し、教育目標の達成に努める教師	
前年度までの本校の現状	成果	新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着き、学校公開などが例年通りに開かれ地域や保護者の参観がで き、保護者や地域の理解を深めることができた。また、自己肯定感を育てる行事等においても、教 育課程と併せて教育活動を行うことができた。	課題	全教職員の学校経営参画意識を高めた、ラインによる組織的な運営の実践。家庭と地域と学校が一体となっ て、より一層開かれた教育課程の実現を目指す。不登校巡回拠点校である利点を活かし、生徒一人ひとりに寄り添った教育相談の充実を図る。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○学力の向上 ・学習の基礎・基本の確実な習得（だれ一人取り残さない学力向上アクションプランの実施、充実、発展。）	放課後学習教室EDOスクの充実。民間業者と連携。	週平均利用者が78%を超える出席率になるよう、業者と連携する。とくにD層の底上げ	70	80	B	・EDOスクの出席率は9月段階で78%を越えている。CD層の受講が水曜に偏っているため十分とは言えない。理由がなく欠席する生徒が2学期に比べて少し増えたので対策を考える。	B	・外国籍でCD層の生徒の学習のフォローは十分なのかどうか心配である。	B	・DOスクの欠席をなくすために欠席カード連絡カードを作り業者と連携し、出席率を増やせた。家庭学習に対する充実を組織的に行う事にも力を入れる。	B	・引き続き外国籍の生徒の学習について、基礎基本の定着と、家庭学習の充実を図りたい。	・CD層の全員登録を目指す。定員いっぱいまで教員に促されるのではなく自分で向上心を持って取り組ませるよう対策をたて年度当初から取り組む。
	○家庭学習の充実 家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	学期に一回の江戸川っ子スタディウィークの充実と、進んで学ぼうとするための機会を増やす（期間延長など）	江戸川っ子スタディウィーク3学期の終了時に実施率90%以上を目指す。	70	90	B	江戸川っ子スタディウィークについて各学年で実施開始前に学級委員等でクラスに宣伝し、定期考査前に向けて自然に学習課題に取り組みむようにした。	B	家庭学習の授業をより一層図るべきである。家庭学習の充実のためにもiPadのより良い使い方をもっと伝えていく必要がある。	A	江戸川っ子スタディウィークの実施率が上がり、江戸川区第4位となった。学年委員主催の学習時間コンクールなど工夫した結果である。	A	iPadを有効活用し、引き続き家庭学習の充実を図ることを期待する。今年度のみでなく、継続できる工夫を。	家庭学習の充実を引き続き課題である。もっと生徒が主体的に学習に向かう方法を組織的に考える。
	○読書科の更なる充実 読書活動を通じた探究的な学習の実施及び充実	・読書科コンクールの実施と充実と全学年ビブリオバトル開催に向けた取り組みの中での図書室活用の充実 ・週1回よむyomuワークシートの活用	・新校舎の図書室のバーコード化による、一人月3冊以上の借用を目指す	70	90	B	・仮校舎引っ越しのため9月は開館できなかった。バーコード化を進め、10月に開館予定となった。校内ビブリオバトルは9月までに全学年終了。	B	・10月の学芸発表会で代表の発表を聞いた。上手にできていた ・新しい図書館を有効利用してほしい。 ・yomuよむの週一回継続を。	A	・10月より学校図書館が開館した。バーコード化が安定しなかったため利用者は令和8年になってから増え始めた。 ・ビブリオバトルの全国大会予選に1名出場した。（3月末）	A	・新校舎になりきれいで使いやすい学校図書館のこれからに期待している。	・学校図書館のより充実を図る。週1回の読書科は、充実している。公共図書館巡回職員との協力を活用し、もっと授業で取り上げる。
体力向上	○運動意欲、基礎体力の向上 ・個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・年間指導計画に基づき補助運動を実施し体育的活動を充実させる。	・生徒アンケートで体育の授業が好きであるを95%以上にする	85	95	A	・補助運動を体育の授業で必ず取り入れ、体力向上にや体育的活動を充実させた。	A	・5月の運動会では、どの学年、クラスもしっかり練習を積み上げて昨年にも増して充実した会となった。	A	・補助運動を実施しているため、基礎基本が身についたと肯定的な意見が96%をこえた結果である。	A	・屋内運動場ができ、体育の授業を楽しみにしているという声を聴く。引き続き安全に取り組める授業を。	・新しい屋内運動場と、武道場が出来たため、来年度はより充実した活動を目指す。武道の充実を図る。
		・河川敷や近隣の小学校の協力を得た体育の授業や部活動の実践と充実	今年度も河川敷や小岩小学校をお借りするので、素早く行動授業時間を確保する。	70	70	B	・2学期は新校舎でプールが出来たが、1学期はほとんどできなかった。	B	・河川敷の授業は充実している。移動のとき、授業の荷物が多く安全面で心配である。	B	・小学校をお借りした運動会は昨年にも増して充実した。河川敷の授業は移動に時間がかかり授業時間が減ってしまった。	B	・校庭ができるまでは安全面に気を付けながら屋内運動場や河川敷での授業で体力向上に取り組んでほしい。	・新しい校庭が7月にできるため、小学校を借りて最後の運動会である。より充実させる。
		・スポーツテスト結果の向上（体カテストの取り組みを通じた、一人一人の体力向上への意識の高揚）	東京都の体カテストの得点平均258.5に近づけるようにする。（令和6年度は249点）	80	80	B	・体カテストへの取り組みで事前に柔軟性と、筋力アップに取り組んだ。その結果	B	・体力向上の取り組みをより一層丁寧にやってほしい。走る、飛ぶ、投げるなどの記録があがるとよい。	B	・東京都の体カテストの得点平均の258.5に近づいてきた。後少しの差である。	B	・柔軟性や、筋力アップなどの基礎体力の向上への意識をもっと高めてほしい。	・体育の授業を通じて体を動かすこと、基礎体力の向上を意識させて学校全体で伸ばす授業展開を目指す。
教育の推進 現生社会の 実現に向けた	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・PTAと協力しオリパラ講演を成功させ、さらに体験活動を実施する。	・年一回以上の講演会と授業の中で障がい者理解教育を取り上げた授業を学期に1回は行う。	70	80	B	・12月のオリパラ講演に向けて体育の授業や道徳、総合で準備を始めた。デフリンピックに向けては動けなかった。 ・アイヌ文化についての講演も行ったが、深めることが出来なかったのが残念である。	B	・12月の講演会をいつもPTAと共同で行うため、とても楽しみにしている。	B	・今年度5回目を迎えたオリパラ講演会では、実践活動として、実際のオリパラ種目を体験させた。選手との交流が続き、3月末にも来校し、交流した。	A	・今年も3学年前部と交流が出来た。各学年で体験内容が違うため充実した取組だった。	・道徳、総合との一層の連携と充実を図る。多文化共生教育の充実に向けて年度当初より取り組む。
	○エンカレッジルーム（EC室）の活用促進 校内委員会の効果的な活用	・SC、SSWとの連携をさらに充実させる	・校内委員会35回以上の実施と、個別指導計画を上がった事例は100作成し、支援体制を整える。	60	70	C	・エンカレッジルームの使い方の見直しを行い、新校舎での部屋の使い分け方等も模索する。	B	・新しい場所になり、職員室から離れてしまったことが心配である。部屋が新しくなったことはこれから充実して使えそうではある。	B	・利用生徒が増え、カムダウンに使えるようにしたが、人数が多いためにSCとの連携がとりにくかった。SSWの協力があり、よかった。	B	・校内委員会は38回実施。個別指導計画をもとに支援の方法を毎回話し合った。どこにもつながない生徒は0人である。	・EC室のより一層の充実とSC、SSWとの連携を強化する。毎日開室はしているため、連携がうまく取れない日をなくす。
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 多文化共生の取り組みの充実	・復籍交流の実施と充実。（鹿本学園のコーディネーターと連携） ・巡回指導の授業の充実	・復籍香料の実施と充実。（鹿本学園のコーディネーターと連携を取り年3回は交流する。 ・巡回の授業を20回以上実施する計画を立てる。	60	70	C	・鹿本学園との復籍交流が実現し出来なかった。（鹿本学園の事情により） ・巡回指導の授業を昨年より多く授業数を確保。	C	・昨年のように鹿本学園の生徒と交流が持てるとよかった。 ・新校舎になり、エンカレッジルームが狭くなってしまったが、使い方を工夫してほしい。	B	・復籍交流以外でも交流できる施設等を生徒会とタイアップして取り組むことを考えていく。 ・エンカレッジルームの使い方や運営の仕方について校内委員会でしっかり決定し、全校で把握する。	B	・来年度は直接交流できるとよい。 ・エンカレッジルームの使い方を周知してほしい。	・いわに学級に協力を促し、当初の目標の35回の授業時数確保を行う。抜き出し授業の補習を計画的に行う。

不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの健全育成に向けた取組 いじめアンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動や選挙活動の活発化。前後期の生徒総会実施を今年度も引き継ぎ行う。 いじめアンケートは年3回実施を継続。 	80	70	A	<ul style="list-style-type: none"> 全学年での取組「服のチカラプロジェクト」を成功させた。自分たちで自主的にボランティア等を計画し、行えたことがよかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> SNSを利用したネットトラブルについて、なかなか指導が行き渡らなく、歯がゆい場面もあった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいアンケートの年3回実施、全員面接を通して課題のある生徒と学年教員が話し合い活動を充実させた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> SNS等を利用したネットのトラブルが広がらないよう未然防止に力を入れるために保護者と連携し取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 啓発授業として、SNSなどからのいじめや嫌がらせなどの対処の仕方をPTAとタイアップして一緒に行う。
	○hupaer-QU、個人面談の活用	<ul style="list-style-type: none"> ヤングケアラーの個別面談を1学期中に全学年行う 	<ul style="list-style-type: none"> ヤングケアラーの全校学習を行い、年3回実施のふれあいアンケート等で実態を把握する 	70	75	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年同様hupaer-QUは全学年、2回実施した。ヤングケアラー面談と1年生全員面談を両方行い、問題点を学校全体で共有した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の早いうちから学校全体で実態を把握し、落ち着いた学校生活になるよう取り組んでほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2回目のhupaer-QUにたいして、学年分析をそれぞれが行ったが、プロに分析してもらい学級や学年でもっと活用できるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> より丁寧に一人ひとりの特性を把握してそれぞれに合った声掛け等を工夫したい。 	<ul style="list-style-type: none"> hupaer-QUの実施後、勉強会を自主的に開いているが、専門家呼び分析を依頼し、もっと活用する。
	○教育相談の強化	不登校対策の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 不登校巡回の拠点校として未然防止のためアンケートを3回実施し、教員研修も3回行う 	70	85	B	<ul style="list-style-type: none"> 不登校巡回教員の拠点として、校内を整えるのに2学期いっぱいかった。もっと早く整えたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒が増加しないよう魅力的な学校づくりをしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 不登校巡回教員を中心に、エンカレッジサポーターの活用と取組の見直しを行えた。不登校の数自体は増えてしまったが、すべてどこかにつながっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 不登校という言葉が違う言葉に置き換えられないか。マイナスでなく、プラスの作用にすべく取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本当の意味での不登校解消を目指す。それぞれの課題を明確にし、一人一人に合った取組を行う。
学校（園）開かれた地域社会に実現	○自校の取組の積極的な発信 ○学校ホームページの充実等	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの更新。 テトルの積極的活用 	<ul style="list-style-type: none"> 一日一回ホームページの更新を行う。 テトル加入100%を目指し、全家庭とつながる。 	85	90	B	<ul style="list-style-type: none"> 新校舎へ移動のこともあり、お知らせや出来事をテトルに載せ積極的に活用した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はお知らせがホームページやtetoruiに上がるようになり、学校の様子がわかるようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 一日1回のホームページ掲載は難しかったが、その分内容を増やし学校のことわかるように更新した結果今年度は13万アクセスとなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> プリント配布が多く、さらに年頃もあり、保護者までプリントが行き渡らない部分の改善をテトルをもっと活用することにより、求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページのレイアウトを変え、より地域保護者の方にわかりやすいものとする。テトルの内容を厳選してよりペーパーレス化する。
	○内部評価、外部評価の充実と評価結果を踏まえた改善	学校公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 年3回以上の学校公開や授業公開を行う。 	85	85	B	<ul style="list-style-type: none"> プレハブ校舎最後の学校公開から間を開けずに、新校舎になって1週間で公開できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新校舎になってからの学校公開の日数を増やしてほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 南と北の校舎を上手に使い、混雑せず学校公開をしたり、学芸発表時は実技棟（北校舎）から見せた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 随時学校公開を行ったので、新校舎での学習の様子もよく見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開日を普段の日から土曜に変えた。その方がたくさん保護者に見ていただけるので。
	○学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、地域へのアンケートは年2回実施目標。 	80	85	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価の時期と校舎の移転が重なり、昨年同様にはできなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートにいじめについて、保護者の回答を知らせてほしい。学校、家庭と両輪で子供を守るには意識の向上が大切である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 9月以降学校評価を2回行った。おおむね肯定的な意見をいただいた。教職員の自己反省アンケートを新たに行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果がすぐ見られてよかった。紙ベースでなくなったが、2次元コードからの読み取りが面倒だったためか、アンケートの回収率が悪かった。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果が3者3様だったため、もう少し絞って何を改善すべきか考える。
教育の展開 特色ある	○生徒憲章（生徒自ら策定）の具現化 ・生徒が活躍する機会の充実 ・地域とともに地域行事で活動する地域に根差した小岩一中	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の充実。地域祭り等自主的な参加。 	<ul style="list-style-type: none"> スポこみ拾いの積極的参加。地域祭り等のボランティアの呼びかけで述べ参加人数を340人以上にする。 	90	90	A	<ul style="list-style-type: none"> 5月の小岩地区地域祭りボランティアの人数が学校の三分の一の人数100人を超えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 5月の地域祭り等は自主的にたくさんの生徒がボランティアに来ていて助かっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特色である三校一園音楽会が今年も大盛況であった。さらに12月の笑顔と学びのプロジェクトでは実行委員形式で生徒主体で行えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 秋の大きなボランティアスリーゼロ作戦と期末考査が重なっているため、保護者しか出られていないという事が2年続いた。来年度は生徒が参加できるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> が使えないため本校の屋内運動場で開催する。その成功と、4度目になる声優の方とのキャリア教育の実施の生徒による活動を大切にする。3ゼロ作戦に期末考査が重ならないように配慮する。
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が行う新たな活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 服のカプロジェクトの実施を学期に1回行う。 	70	80	B	<ul style="list-style-type: none"> 全学年での取組「服のチカラプロジェクト」を成功させた。生徒会本部が自主的に新たな活動として取り組んだ 	B	<ul style="list-style-type: none"> 服のチカラは家庭でも協力できた。小さい子供服は捨てられなかったため、良い機会になった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 後期、新校舎になっても「服のチカラプロジェクト」を後期の本部役員で自主的に行ったことが認められ、ユニクロより賞状を頂いた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> もっと自主的に様々なことを臆することなく取り組んでいけるとよいのではないかと。また生徒の意見が反映されているようには感じられない。 	<ul style="list-style-type: none"> より充実した生徒会活動や実行委員活動になるよう、意見を交わしながら個人の表現の場を増やす。
		<ul style="list-style-type: none"> 教員のICT研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員のICT機器使用を学校アンケートで肯定的意見が90%を超えるくらい、研修し使いこなす。 	80	90	B	<ul style="list-style-type: none"> 年3回以上のICT研修のうち2回と2回の研究授業を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に負けないくらいの勢いで操作など覚えていつでもどこでもiPadを使いこなせるようにしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教科によって使いやすさに差はあるが、90%を超える授業での活用率になった 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習もiPadで提出できるようになり、身近になってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修を増やし、誰もが自信をもってこの課題に取り組めるよう充実させる。